仁和寺にある法師 ――「徒然草」から (2)

兼好法師

徒然草（つれづれぐさ）

※仁和寺にある法師、年寄るまで※石清水を拝まざりければ、
仁和寺にいる法師が、年をとるまで石清水八幡宮を参拝したことがなかったので、

心憂く覚えて、あるとき思ひ立ちて、ただ一人※徒歩より詣でけり。
残念なことに思われて、ただ一人で徒歩で参詣した。

極楽寺・高良などを拝みて、①かばかりと心得て帰りにけり。
極楽寺・高良神社などを参拝して、帰ってしまった。

さて、かたへの人にあひて、
仲間に向かって、

「②年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。
長年思っていたことを、果たしました。

③聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。
聞いていたのにも勝って、尊くいらっしゃいました。

そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、
それにしても、参拝している人々がみな山へ登ったのは、何かあったのだろうか、

④ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、
知りたかったけれど、本来の目的であると思って、

山までは見ず。」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。
その道の先導者はあってほしいものである。

（第五十二段）

※仁和寺…京都市右京区御室にある真言宗の寺。

石清水…石清水八幡宮。京都府八幡市男山の山上にあり、ふもとには付属の極楽寺・高良神社があった。

徒歩…当時、都から石清水への参詣は、桂川・淀川を使う舟便が一般的だった。

重要語句

……はべり	……ます
おはす	いらっしゃる
ゆかし	見たい、聞きたい、知りたい

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「かばかりと心得て」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア 石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)はこれだけのものだと思い込(こ)んで
イ 極楽寺・高良神社はこれだけのものだと思い込んで
ウ 徒歩ではこれ以上、山に登れないと思い込んで

〔　　〕

(2) ――線②「年ごろ思ひつること」とは何か。適当なものを選びなさい。

ア 石清水八幡宮に参拝すること。
イ 極楽寺・高良神社に参拝すること。
ウ どこかの神社に徒歩で参拝すること。

〔　　〕

(3) ――線③「聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ」とあるが、法師は何が尊かったと述べているのか。適当なものを選びなさい。

ア 仁和寺　イ 石清水　ウ かたへの人

〔　　〕

(4) ――線④「ゆかしかりしかど」とあるが、何を知りたかったのか。適当なものを選びなさい。

ア 参拝したかった石清水八幡宮はどこにあるか。
イ 山の上にある石清水八幡宮はどんな様子か。
ウ 参拝している人々が山に登っていたのは何かあったのか。

〔　　〕

(5) 次の本文中の表現について、含(ふく)まれる係りの助詞をそれぞれ書きぬきなさい。

A 何事かありけん
B 神へ参るこそ本意なれ

A〔　　〕　B〔　　〕

(6) 本文中で筆者の考えが述べられている一文を探し、最初の三字を答えなさい。